令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大宮東中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識･技能	
思考･判断･表現	

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上･指導上の課題		学力向上策【実施時期･頻度】
知識･技能	＜学習上の課題＞基礎的な知識･技能はすでに身についているが、「文脈に即した適切な漢字を使う」や「整式の加法と減法の計算の質問」の項目で市の正答率を下回っていること、②学力が二極化していることが課題である。 ＜指導上の課題＞生徒の学習に向かう意欲、復習の習慣を得られるよう、授業改善を継続して取り組むことが課題である。	⇒	授業及び家庭学習においてスタディサプリ等を活用し、個の定着度に応じた反復練習に取り組ませるとともに、スモールステップを意識した授業を展開し、習熟に努める。【単元終了時等】 また、生徒の学習履歴等に基づき、適宜アドバイスをし、テスト計画の作成や、家庭学習等を活用した取り組みを行う。【学期に2回程度】
思考･判断･表現	＜学習上の課題＞課題解決に向けて自分で取り組むことや友達との話し合いから考えを深めることはできているが、学習した内容を見直し次の学習に繋げる力が弱いことが課題として挙げられる。 ＜指導上の課題＞生徒自身が考え、説得力のある思考･判断･表現に繋がる授業改善に取り組むことが課題である。	⇒	授業の中に話し合い活動やスピーチ活動を積極的に位置づけ、他者に自分の考えを表現する力の向上を図る。また、単元終了時に振り返りを行い、自身の課題を考えさせ、次の学習につなげられる場を多く設定する。【単元計画の中で随時実施】

⑤	評価（※）	学力向上策の実施状況
知識･技能		
思考･判断･表現		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力･学習状況調査結果について（分析･考察）
知識･技能	
思考･判断･表現	

④	さいたま市学習状況調査結果について（分析･考察）
知識･技能	
思考･判断･表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期･頻度】
知識･技能			
思考･判断･表現			

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大宮東中学校】

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能はすでに身についている生徒も多いが、①数学の「数と式」など分野によって差が出ていること、②学力が二極化していることが課題である。 <指導上の課題>スタディサプリなどを用い、個々にあった学習方法や習得した「知識・技能」を活用する場の設定や、学び合い活動などを行うことで、スローラーナーへの支援が課題である。	⇒	AIドリル等を活用し、基礎的・基本的な事項の定着を目指し、個の定着度に応じた反復練習に取り組ませる。【単元終了時等】 また、生徒の学習履歴等に基づき、適宜アドバイスをし、定期テスト前等の学習計画の作成や、家庭学習等を活用した取り組みを行う。【学期に2回程度】
思考・判断・表現	<学習上の課題>①問題文を読んだり発表や質問を聞いて答えたりすることへの苦手意識が高いこと、②発表やレポートなどにおいて、自分の言葉で表現する力が弱いことが課題として挙げられる。 <指導上の課題>教科書等を用いて、書いてあることを根拠に自分の考えを話す活動など、自分の考えを論理立てて構築する活動を行い読解力と表現力の向上に取り組むことが課題である。	⇒	授業の中に話し合い活動やスピーチ活動を積極的に位置づけ、表現する力の向上を図る。タブレット端末を活用し、情報活用や発表の能力が求められる学習活動を多く設定する。【単元計画の中で随時実施】

②	全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	さいたま市の平均と比較し、国語、数学ともにすべての設問で平均正答率を上回っていることから、基礎的・基本的な事項について、定着が図られている。
思考・判断・表現	国語において、資料を用いて自分の考えが分かりやすく伝わっているかを確認する問題や、話し合いの中で意見と根拠など情報同士の関係について理解できているかを問う問題では、無解答率が市の平均より高いことがわかったため、授業だけでなく、教科等横断的に力をつけさせていく。 数学において、正方形の回転移動の理解について、無解答率が市の平均より高いことがわかったため、本校生徒の傾向として捉え、集中的に定着を図っていく。

③		中間期報告	中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	・AIドリル等の活用については、各授業での効果的な活用方法を研究している段階である。エバンジェリストを中心に、好事例等の実践を校内で共有し、効果的な活用を推進していく。	変更なし
思考・判断・表現	B	・タブレットの活用率が令和5年度に比べ2倍になり、各教科等でプレゼンテーションや話し合い活動での教育活動で効果を発揮している。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	2年数学、2年社会では、知識・技能に関する問題について、市の正答率をすべて上回ることができた。体験的な活動から得た知識が身に付いている。国語の文脈に即して漢字を使うことができるか、文語のきまりを理解しているか、1年の数学の計算を問う問題や社会の資料から適切な情報を読み解る問題等、基礎学力を必要とする問題に課題がみられた。授業の中で、既習の確認や繰り返し学習をさせることで、基礎学力の定着を図る。また、生徒の知識・技能が深められるよう努めていく。
思考・判断・表現	国語、数学、社会、理科、すべての教科で、市の正答率を上回ることができた。話し合い活動や他者との協議から解決策を見出す活動を通し、思考・判断・表現の力をさらに向上させたい。

⑤	評価（※）	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	スタディサプリを活用した基本的な事項を繰り返し学習する機会を設定し、学習習慣の定着を図ることに努めた。また、学習計画表に取り組ませることで、学習意欲の向上や予習・復習の習慣化に繋げることができ、市の正答率を2.3ポイント上回ることができた。引き続きさらに学習意欲が高まる授業を展開する。
思考・判断・表現	B	「Teams」や「ミライシード」を活用し、思考から表現までの過程を可視化し、意見の共有や協働作業を行った。その結果、「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた」質問項目で肯定的な回答の割合が96.8%を得ることができた。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的にどの項目でも、市の正答率を上回っていたが、文脈に即した適切な漢字を使う、質問項目で0. 6%、整式の加法と減法の計算、の質問項目で0.5%市の正答率を下回っていた。基礎基本の力の定着を図り、生徒の学習に向かう意欲、復習の習慣を得られるよう、授業改善を継続して取り組んでいく。
思考・判断・表現	「課題解決に向けて自分で取り組む」「友達との話し合いから考えを深める」の質問項目では、90%を上回っているが「学習した内容を見直し、次の学習に繋げる」質問項目では、市の回答率を上回ってはいるものの、特に1年生は87.2%に留まっている。今後、生徒自身が考え、説得力のある思考・判断・表現に繋がる授業改善に努めていく。